

科目名	デッサン3							年度	2025
英語科目名	Drawing 3							学期	前期
学科・学年	CG映像科 2年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実技
担当教員	家入 瑞穂		教員の実務経験		有	実務経験の職種		美術科教員	

**【科目の目的】**

この科目を受講する学生は、1年次で学んだデッサンの基礎力をさらに深く学び、養うことを目的とする。デッサンを通じて、対象物（モチーフ）の情報をより多く・正確に収集する力、つまりクリエイターとしての「観る力」の向上を目指す。デッサンにより得た知識や技術を工夫・活用することで、表現の幅は広がり、より質の高いCG制作へと繋がる。ただし、デッサンの基礎力を身につけるには、地道な制作の繰り返しと積み重ねによって得られるものであり、そのことを理解し、認識することが重要となる。

**【科目の概要】**

特徴的な質感を持つ静物や、人体の一部をモチーフとしたデッサンを行う。描画材の特性を活かして、構造や形態、光源といった演出にこだわった表現ができる方法を学ぶ。また、デッサンを描く上での構図・構成を理解し、モチーフの特徴を活かした描画を行う。

**【到達目標】**

・デッサンにおける構図・構成を理解し、形態やパースを正確に捉え、明暗の階調、質感を表現し、積極的に制作できる。制作の繰り返しにより、各自の問題点を認識し、正しい方向へ修正し、就職活動に通用する成果物（作品）を完成させる。  
 ・質感の特徴を掴み、質感表現のこだわりを持てるようになる。画面上における光の設定、演出ができる。制作の繰り返しにより、各自の問題点を認識し、正しい方向へ修正し、就職活動に通用する成果物（作品）を完成させる。

**【授業の注意点】**

授業時限数の4分の3以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない  
 教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力
到達目標 A	表現に応じて描画材を選び、デッサンが描けている		表現に応じてある程度描画材を選び、デッサンが描けている		適切な描画材が選ばない
到達目標 B	形態の特徴を十分に捉え、パースの取れたデッサンが描けている		形態の特徴をある程度捉え、パースを意識したデッサンが描けている		形態の特徴が捉えられず、パースが取れない
到達目標 C	モチーフの質感を十分に観察し、明暗のコントロールができている		モチーフの質感をある程度観察し、明暗のコントロールを意識している		モチーフの質感を観察しておらず、明暗のコントロールができていない
到達目標 D					
到達目標 E					

**【教科書】**

【参考資料】 卒業生の過去作品						
【成績の評価方法・評価基準】 試験・課題 80% 課題で評価する（提出の仕様や期限も評価の対象とする） 平常点 20% 授業参加態度によって評価を行う						
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。						
科目名		デッサン3			年度	2025
英語表記		Drawing 3			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル		評価方法 自己評価
1	オリエンテーション	描写用具についての知識を深め、さまざまな使い方と表現を習得する	1	鉛筆の使い方	鉛筆の種類と持ち方を理解する	3
			2	グラデーション	表現に応じた描き方を理解する	
			3	基本形態	形態の構造・パースの取り方を理解する	
2	静物1	形態を正しく捉えるとともに正しい構図を描く技術を習得する	1	レクチャー	モチーフの特徴を理解する	3
			2	イメージスケッチ	構図を決めるためのイメージを考える	
3	静物1	形態を正しく捉えるとともに正しい構図を描く技術を習得する	3	下描き	形態を正しく捉え、簡単なパースが描ける	3
			4	描き込み	パースをより明確にし、明暗をつける	
			5	仕上げ	細かい修正を行う	
4	静物2	形態を正しく捉え、光・影を意識し、立体感・形態感を強める表現を習得する	1	レクチャー	モチーフの特徴を理解する	3
			2	イメージスケッチ	構図を決めるためのイメージを考える	
5	静物2	形態を正しく捉え、光・影を意識し、立体感・形態感を強める表現を習得する	3	下描き	形態を正しく捉え、パースが描ける	3
			4	描き込み	パースをより明確にする	
					陰影を意識する	
6	静物2	形態を正しく捉え、光・影を意識し、立体感・形態感を強める表現を習得する	5	仕上げ	立体感・形態感を強めて描く	
					細かい修正を行う	
7	静物3	形態を正しく捉え、質感を観察し、明暗の階調の調整する技術を習得する	1	レクチャー	モチーフの特徴を理解する	3
			2	イメージスケッチ	構図を決めるためのイメージを考える	
8	静物3	形態を正しく捉え、質感を観察し、明暗の階調の調整する技術を習得する	3	下描き	形態を正しく捉え、パースが描ける	3
			4	描き込み	パースをより明確にする	
					質感を観察する	
9	静物3	形態を正しく捉え、質感を観察し、明暗の階調の調整する技術を習得する	5	仕上げ	明暗を調整する	
					細かい修正を行う	
10	静物4	光の設定を自ら行え、質感を描写表現し、作品完成度を上げる	1	レクチャー	モチーフの特徴を理解する	3
			2	イメージスケッチ	構図を決めるためのイメージを考える	
11	静物4	光の設定を自ら行え、質感を描写表現し、作品完成度を上げる	3	下描き	形態を正しく捉え、パースが描ける	3
			4	描き込み	パースをより明確にする	
					質感を観察する	
					明暗を調整する	

12			5	仕上げ	細かい修正を行う	3
13	人体（手）	骨格、筋肉等人体構造を意識した描写表現を行う	1	レクチャー	モチーフの特徴を理解する	3
			2	イメージスケッチ	構図を決めるためのイメージを考える	
3			下描き	形態を正しく捉え、骨格を意識して描く	3	
4			描き込み	手の構造がわかるように描く		
				質感を観察する		
14			4		明暗を調整する	3
15			5	仕上げ	細かい修正を行う	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						